

発行 松本市社会福祉協議会 里山辺支会
 編集 福祉さとやまべ編集委員会
 印刷 藤原印刷株式会社

支え合う里山辺
 里山辺地区民生委員・児童委員協議会 会長 上條 健二



里山辺地区民生委員・児童委員協議会会長を拝命いたしました、荒町町会の上條健二と申します。里山辺地区の福祉活動に微力ながら精一杯努めてまいります。

令和七年十一月三十日をもって民生委員・児童委員の任期が満了となり、一斉改選が行われました。新たに就任しました十七名、再任しました七名で自身の健康を第一に福祉活動に努めてまいります。また、今回退任されました十

六名の皆様におかれましては、長年にわたり里山辺地区内での福祉活動に尽力をいただき、感謝申し上げます。

さて、令和七年十一月二十九日キッセイ文化ホールにて臥雲松本市長臨席のもと民生委員・児童委員委嘱状伝達式が執り行われました。里山辺地区からは二十四名が上野賢一郎厚生労働大臣より民生委員・児童委員に委嘱されました。私ども二十四名は社会奉仕の精神をもってボランティアとして福祉活動に励む決意をいたしました。今回の一斉改選にて藤井町会是一名増員となり、今まで以上に福祉活動が期待できます。福祉活動ニーズが多様化複雑化する現代において私どもは何気なく、それとなく、さりげなく相手に寄り添う姿勢を大切に重要な役割を担っています。

福祉活動は多岐にわたっており、里山辺地区内の皆様からの相談等に対しその都度適切に対応しつなぎ役として支援機関である東部地域包括支援センター、里山辺地区生活支援員と連携協働してまいります。困り事等ありましたら、身近な民生委員・児童委員に気軽に相談をしてください。私どもが知り得た内容については守秘義務がありますので安心してください。

民生委員・児童委員は一人暮らしの高齢者の見守り、安否確認を毎月定期的に行い、かつ目配り、気配り、心配りを大切に話し相手として相手の立場に立って聴く事に努めています。また子育て世代に対して支援活動を行っています。主任児童委員は里山辺地区内の子育て、児童福祉を専門に担当しています。子育て支援など相談に応じる重要な役割を担っており、また赤ちゃん訪問、山辺児童センター、山辺放課後児童クラブ、育成クラブ等の活動に参加し応援しています。

「里山辺かるた」
 よもやま話 ④6
 「福祉ひろば」の活動
 松本市地域文化財連絡協議会
 会長 小岩井 俊忠

「昔は近隣のお年寄が陽だまりの縁側につどって、お茶を飲み雑談を楽しんでいた。そんな施設を地域内に作れないか。」

このような理想のもとに松本市に『福祉ひろば』が発足したのは平成六年のことでした。当地区では藤井町会の『うつくしの里』の中に設置されましたが、その後『教育文化センター』敷地に移り、更に新公民館の開設と共に、館内に設置されました。発足時は「公民館との住み分け」が問題となり各地区で混乱も見られましたが、当地区は当初より両者の協力・共催の努力を重ね、大きな成果をあげてきました。素晴らしいことです。

助け合い
 地域の輪広がる 福祉ひろば



広がる明るい活動の輪

車の両輪で

北小松町会 松寿会
会長 丸山 哲弘

北小松町会には松寿会(敬老会)と楽語会という二つの高齢者活動団体があります。

楽語会は誰でも気軽にしゃべりできる憩いの場をという願いのもと、平成二十三年に発足した百円会費のお茶会で、毎月第三水曜日に開かれ、今年の二月が百六十回目でした。また、毎週実施の百歳体操もこの会が母体で六年目を迎えました。

一方、私どもの松寿会は「動き、食べ、交わる」を合言葉に、暑気払いや忘年会・懇親旅行や町会の花壇づくり、奉仕作業等の活動をしてきました。

特に昨年の十二月には、楽語会と共催・町会後援で「貞享騒動について」講演会を開催しました。講師に貞享義民館の寺島俊郎館長をお招きし「加助騒動と人権問題」についての話を聴くことができました。聴講者は三十三名と少なかつたのが残念でしたが、子どもから大人まで理解できる素晴らしい講演でした。お話の中で、直訴(將軍や領主への訴え)は即死罪という当時の厳しい掟に、加助たちの決意や支配される農民たちの

知恵、里山辺村農民の立ち位置等から現在につながる人権問題について共感する部分が沢山ありました。講演後の講師の先生との懇談も話はずみ、充実したひと時が過ごせました。参加された方から「このような企画を時々して」との要望が多くあり、お楽しみや懇親等から更に場を広げ、今回のような勉強の場を増やしたいと思えます。

これからの私たちの活動、楽語会と松寿会を車の両輪とし、子どもたちや若い世代の方々と一緒に活動できる場を大事にしていこうと考えています。

その場の一つ、町内の寺子屋教室への参加があります。教室は毎年春と夏に開かれ、夏は五日間、一日の前半は学習・後半は工作や科学教室等です。そこへの参加でより広い世代との交流が期待ができるからです。



貞享騒動について講演会の様子

子どもたちと語り合う
里山辺の将来

里山辺地区まちづくり協議会
監事 赤羽 弘康

昨年の十月九日に里山辺地区まちづくり協議会主催の「まちづくりトーク」が開催されました。今年度は山辺放課後児童クラブとの共催により地区の町会長六名と山辺放課後児童クラブの五・六年生の子どもたち約二十五名が参加し、「もつとすてきな里山辺にするには？」をテーマにグループワークを行いました。

最初の「地域のいいところ」では、豊かな自然、美味しいぶどうや野菜が栽培されている、お船祭りをはじめとする伝統行事、そして地域の人々が元気であいさつをしてくれることなどが挙げられました。

続く「生活していて困っていること」では、道路や歩道の狭さによる危険、公園や商店の少なさによる不便さなど、子どもたちが感じている率直な声が聞かれました。

最後に「将来の夢(こうなつて欲しい里山辺)」では、道路や歩道の拡幅、ガードレールの設置など安全に通行できる整備や、みんなが集まれる場所や公

園を増やしてほしいなどの要望がありました。また、子どもの少ない町会では子どもが増えてほしいという願いも聞かれました。

短い時間ではありましたが、楽しく話し合いながら、真剣にテーマに取り組み、将来のまちづくり活かせるヒントを見つけて出してくれた子どもたちに感謝です。今後も世代や立場を越えて話し合う場を大切に、より良いまちづくりに繋がることを願います。



和気あいあいとした雰囲気でした

編集後記

令和七年は、昭和百年・戦後八十年の節目の年でしたが、「福祉さとやまべ」も百号記念号を発行することができました。

令和八年も里山辺の福祉活動が、多くの皆様の参加により、更に充実したものとなるよう願っております。